

宮古ボランティア NEWS LETTER ニュースレター

NO.15号
2014年12月25日
次号は2015/4/25予定

阿部幸子さん ありがとう！ 天国から見守ってください

宮古ベース担当 上杉 昌弘

札幌カリタス宮古ベースの「後方支援部」の立ち上げの時から、活動と支援の中心になってくださった阿部幸子さん(手稲教会)が、1年余りの闘病の後、愛するご家族に見送られながら天に召されました。大震災一月後の第1陣から参加され、5月には行って来た仲間に声をかけ「後方支援部」を提案、その中心となって奮闘されました。メーリングリスト作り、ボランティア申し込みへの対応、送り出しミーティング、「要綱」や公平な内規作り、何度も現地へ足を運び被災者の友となって声を代弁し活動に生かしてくださいました。私の元にこの3年間の阿部さんからのメールがあり、最後の受信は2013年7月24日「2カ月くらいパソコンを見られませんか、MLから外してください」と。

本当に良く頑張ってくださいました。天国で多くの被災者と会い、労わられていらっしゃることでしょ。そして、阿部さん、あなたが感謝し、また愛された主イエスと会い大きく暖かい笑えみに迎えられたでしょう。天国でまたお会いしましょう。ありがとう。

※メールより「わたしは、根はやわで、おおざっぱで、あつい人間ですが…」。「宮古ボランティアニュースレターの名称は、愛…風… 私たちは行く…、どうです?」

「阿部幸子さん追悼

2011年4月、阿部さんはボランティア第一陣のメンバーで彼女からの貴重な情報を元に第二陣の私は宮古に入る事ができました。当初宿舎であった宮古教会には日本各地から沢山のボランティアが入りその際共同生活の注意事項を箇条書きにして壁に貼ってくれましたので皆、気持ちよく滞在する事ができました。共に何度も汗して泥だし作業をやり、帰札の折には皆で酒を呑み交わした事など思いでは尽きません。

お疲れ様でした。心よりご冥福をお祈り致します。

(宮古市社協相談員 武田俊一)

宮古ベース活動 あれこれ

■北海道からのボランティア派遣の空白期間には宮古教会の信徒の皆様方のご協力に感謝です。

■宮古教会改修工事に支援協力。

■エアコンの収納等冬対策作業。

■第19回みやこわくわく(和来輪来)まつりが開催。札幌カリタスもジンギスカンを提供。

■全国から、特に冬に向けた支援の品々(靴下、帽子、ひざ掛け、チャンチャンコなど)が届く。カトリック教会の繋がりや広がりを感じています。

■仙台教区サポートセンターの小松神父様と長嶋朋子さんが来訪し、子どもへの支援活動の可能性について話し合われました。

■復興住宅の建設が進み仮設住宅を出た後の生活の話題が多くなってきました。



(お元気な頃の阿部さん(左から二番目))

宮古への道

東室蘭教会 稲澤 壽美子

苦小牧地区女性大会での上杉神父様の”被災地に寄り添う”のご講演で「被災地へのボランティアは普通に家事が出来る人であれば誰でも参加できます」とおっしゃいました。この一言によって「ボランティアへ参加のハードルが低くなった」と感じ、参加者が減少している昨今、私は無関心では居られなくなりました。私も参加しなければならない。しかし不安がいっぱい。なかなか行動に移せない気持ちを上杉神父様にお話し、そこから義務感ではなく、行かせて頂きたいとの気持ちに変わりました。実現出来ますように祈り、そして祈って頂きました。

祈りは大きな行動の力となり、加えて宮古への道を不安なく温かく電話でご案内下さった M 様のお陰で十一月五日宮古へ到着出来ました。宮古での一週間は、ボランティアの先輩諸兄妹から沢山の事を学ばせて頂き感謝の日々でした。カフェに集う皆さんは、いつときの幸せの笑顔でした。一日も早く被災者の皆さんにこの”点の幸せ”から”線の幸せ”になりますよう祈り続けます。

モチーフ編みひざかけ

～帯広柏林台教会 加藤一恵子さん達より寄贈～



今年もまた一年がかりで教会の皆様からモチーフ編みのひざ掛け、小物類を集めて送って下さいました。いつも優しい宮古ベースサポートメンバーです。

(写真の方は札幌からのボランティアです。)

チャンチャンコ

旭川 笹村 玲子

私たちチャンチャンコグループはいつまで続けられるか分かりませんが作業も楽しく続けられていますことに感謝です。一枚でも多くの仮設住宅の人たちにと続けていま



すし、これからも続けたいと思います。どうぞ、一人の方でも多く寒い冬を暖かく過ごして下さいを願っています。私たちのメンバーは旭川六条、五条、大町教会の信徒で一般の方は2名。いつも6・7名で作業を楽しんでいます。又、93歳の方と78歳の女性の方は遠く自転車にて段ボールの中にチャンチャンコを入れ合計18枚も家で縫って届けて下さる方がおられ感謝しております。初めて仮設住宅へ、行き出会った方々を思い出しています。

4回目の奏楽東北訪問を終えて

奏楽事務局・ピアニスト 前田朋子



札幌カリタス様のご支援をいただき、今年も6日間合計10か所での演奏を無事に終えることができました。ツアー中のご同行、そして佐原の家に滞在中のサポートのおかげで、元気に過ごすことができました。まずは、そのことに心よりお礼申し上げます。4回目の東北訪問でも、懐かしい再会や、たくさんの新たな出会いがありました。またどの会場でも、私たちの演奏をじっと聴いてくださり、歓声をあげる子供たちや涙を流す方など、様々な反応をいただけたことは、今後の演奏家人生にも大きな糧になると思います。被災者の皆さんが、日々のお疲れや私たちの想像を超えるような多くの悩み事を少しの間でも忘れて、癒しを感じて頂けたなら、演奏家としてこれ以上の喜びはありません。

また近いうちに、再訪できることを切望しております。

宮古教会の信徒ボランティア紹介

～佐々木 裕さん～

～コーヒーシフォン
ケーキ生クリーム添え～

毎週月曜日にはオリジナルレシピの美味しいケーキを焼いてカフェのお手伝いをしてくれています。傾聴と優しい語り口が大人気!



ボランティアに参加して

藤女子大学 鈴木 貴絵



藤女子大生の皆さん

鈴木さん: 後列左端 世話人今野さん: 右端

今回、3度目の被災地ボランティアをさせていただきました。1度目に訪問した時、ただ集会所にいただけでもできなかったと反省ばかりが残りました。2度目に訪れた時たくさんの人から「来てくれてありがとう」「忘れないで来てくれる、とてもそれが励みになっています。」と言っただけ何もできないけれど、何うことで少しでも喜んでいただけるんだなあと感じ、また来たらと思いました。

今回三度目に来て、私自身を見つめるきっかけになりました。前回出会った人達とまた出会い、変わらず毎日一生懸命に生きている様子や、初めて訪れたところで出会った方々が不安でしようがない日々を送りながらも頑張っている姿などを見て当たり前で過ごしている環境に感謝し、一日一日をもっと大切にしようと思いました。被災地の人達は仲間や友人、家族との繋がりが強く、それに支えられて生きている印象を強く受けました。私も人とのつながりを大切にしようと思いました。

今回は前、前々回の時に果たせなかった「被災地の方々に何か少しでも喜んでもらえる事」を用意してやってみることが少しでできたのかもしれないと思いました。お花をピーズで作り、キーホルダーにして贈り物にし、出会った方々にプレゼントをしてみました。移動カフェだけではなく、わくわく祭りでもたくさんの方にお渡しすることができ喜んでもらったり、笑顔になってもらえたりして、本当にうれしかったです。

お世話になった今野さん、藤女大、天使大、東京の大学から来ていた良い仲間めぐり会えたことにも感謝しています。こちらに何うことは今回でもしかしたら最後になってしまうかもしれませんが、いつまでも被災地の方々のことを忘れずにいたいと思います。

ちょっとはお役に立てたでしょうか。

伊達教会 吉田 哲子



左から
太田輝子さん
菊地美智子さん
吉田哲子さん



仮設集会所にて



仮設集会所にて

「呼ばれていますいつも・・・」この聖歌を心に留めながら、今年も苦小牧地区女性大会に参加しました。「東大震災被災者に寄り添いたい」をテーマに講師の上杉神父様は被災地の現状、宮古ベースの活動、ボランティアの必要性など、熱く語られました。「呼ばれているよ」と聖霊の導きに促され、私を傾聴ボランティアにお使い下さいと心を決めました。

志を同じくする太田さん、菊地さんと共に、移動カフェでの活動となりました。世話人の間島さんのアドバイスを聞きながら、持参のCDで童謡を歌い、習ったばかりの足湯、お話し相手など、とにかく皆さんに心なごむひと時を過ごして戴きたい思いでした。震災のガレキは片付いても、心の傷は癒されないうまま、それでも皆さん明るく互いに助け合っで暮らしておられましたが、心のそこにあるものは「あきらめです」と、そっと話して下さいました。このような現状に心が痛みました。

皆さんに喜んで戴き、ほんのひと時でも心安らいで戴けたのではないかと、そんな思いの中、出合った方々の平安を祈りつつ帰路につきました。

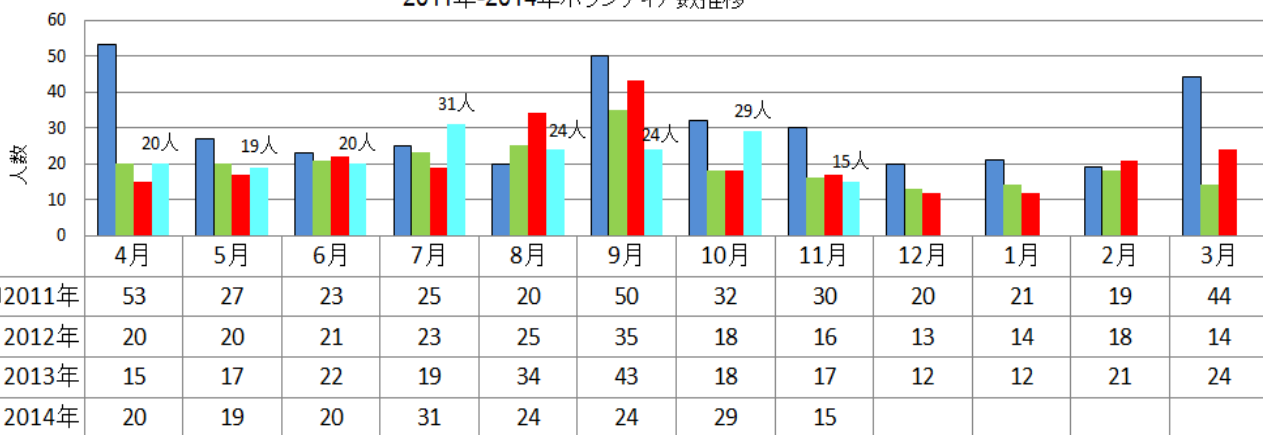
ボランティア活動人数の推移

ここ4か月の動き

期間 (2014年)	8月				9月				10月				11月				
	1~10	11~17	18~24	25~31	1~7	8~14	15~21	22~30	1~12	13~19	20~26	27~31	1~9	10~16	17~23	24~30	
世話人	T	—	Y	Y	K	K	W	W,T	T,M	M	M,Y	Y	Y,W	W	M	M,K	
札幌地区	5		5	10	6		2	3	2	14	1	4	1	3	2	2	1
苫小牧地区							1				4		1				2
旭川地区								1									
函館地区								1									
釧路地区																	
北見地区																	
道外	2			2	3	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
合計	7	0	5	12	9	5	6	4	15	6	6	2	5	3	3	3	4

ここ4か月間に参加されたボランティア人数を札幌教区の6地区別に表しました。 / 道外には宮古教会信徒ボランティアも含まれております。
世話人:M=間島 T=高平 K=今野 Y=芳澤 W=和田

2011年-2014年ボランティア数推移



ご協力をお願い

現在、ボランティアの登録数が少なくなってきています。初めての方々には、事前にオリエンテーションを行い、活動内容をご説明しておりますのでご安心下さい。また、札幌教区サポートセンターの後方支援グループでは、すでにボランティアに行かれた方々に再度お声をかけさせていただいております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。また、「札幌教区東日本大震災災害支援募金」につきましても、引き続きご協力をどうぞよろしくお願い致します。

《 申込・お問い合わせ先 》

札幌教区サポートセンター
(札幌司教館内)
Fax:011-221-3668
E-mail:officecsd@csd.or.jp
Tel:011-241-2785

募金受付口座
北洋銀行苗穂支店
普通預金 3312290
宗教法人カトリック札幌司教区
札幌カリタス

又は
郵便振替口座
02740-8-35329
加入者名「札幌カリタス」
※通信欄に「大震災災害支援」とご記入下さい。